※R-18G

薄暗い地下の一室…。
楽しそうに話す少女たちの中、
四肢を失い、きらめく幾つもの
ピアスに飾られた一人のメイド
が、まるで歪な人形のように
天井から吊下げられていた…。
どう、すごい
でしょう？
お父様がもういらない
って言うから、
私専用のおもちゃに
したの。
キラキラして
とっても素敵だわ！
ふふっ、
お人形さん
みたいね♪
フフ…、
今日はコレで
いっぱい遊び
ましょう♪

こうすれば膣内までよぉく見えますわ♪
折角の遊びですものこのほうが面白いですわ♪
あ…
ヒクッ…
不穏な会話を弾ませながら少女たちは思い思いの器具を手に取り、吊り下げられたメイドに近づいていく。
一人の少女がワイヤーのような器具を、その女性器で銀色に輝くピアスへと取り付けた。
ふふ、本当に奥まで丸見えね。
…でもコレどうなってるのかしら？
にちっ…
桃色の大陰唇が大きく広げられ、その女性器の内側が露わになる。
それは羞恥か快感か、メイドの表情には僅かに朱がかかった。
フフフ、それはお尻から出ている鎖をひっぱって見れば分かりますわ♪

少女たちに金色の器具をねじ込まれ無理やりこじ開けられたアナル。
見れば膣内と直腸を隔てる腸壁には大きな穴が開けられており、そこを金属製のプラグが貫通していた。
そしてプラグから延びる銀の鎖は、膣と尿道を隔てる膣壁を貫き、尿道口から顔をのぞかせているもう一つのプラグへと続いているようだった。
すごいわ！全部繋がっているんですのね！
あぁ…
あ、あぁ
ビクッ
ビクッ
アハハハハ！面白いですわ！こんなところに穴があいてるなんて！
ぐっ
少女の一人がプラグから繋がる鎖を引くと、尿道から顔を出している銀の頭がゆっくりとその奥へと沈んでいく。
フフフ、そうでしょう♪でも大変だったんですよ？嫌がってしまってもう抑えるのに苦労しました。

ボチュ・・ッと湿り気を帯びた小さな音と共に、プラグは尿道から膣内へと転がり落ちる。
同時に尿道の壁に空いた穴がぽっかりと姿を現した。
あはっ
こんなところに指を入れたの生まれて初めてですわ。
するとと少しの間の後、少女の一人がその穴へと無遠慮に指を突き入れた。
ウフフ、存分に堪能して下さいな。
少女はもう片方の手をメイドの膣にかけ、ゆっくりと力を入れながら感触を楽しむように性器の内部をこねくり回す。
次はこれとか入れてみたらどうでしょう？

少女は二本の張形を手にとると、ぱくぱくと口をあけている尿道へと乱暴に突き入れ、メチャクチャにかき回す。
見れば手首ごとアナルにねじこんだもう片方の手の指先は、腸壁に開けられた穴を通り、子宮口へと突き入れられていた。

少女は二本の張形を手にとると、ぱくぱくと口をあけている尿道へと乱暴に突き入れ、メチャクチャにかき回す。
見れば手首ごとアナルにねじこんだもう片方の手の指先は、腸壁に開けられた穴を通り、子宮口へと突き入れられていた。

数時間後…、少女たちの狂乱の宴は終りを告げる。
笑顔で会話を弾ませるその中心では玩具として嬲られ続けた黒髪のメイドが小さな痙攣を繰り返しながら、焦点の合わない瞳を虚空に浮かべ続けるのであった――。

数時間後…、少女たちの狂乱の宴は終りを告げる。
笑顔で会話を弾ませるその中心では玩具として嬲られ続けた黒髪のメイドが小さな痙攣を繰り返しながら、焦点の合わない瞳を虚空に浮かべ続けるのであった――。

数時間後…、少女たちの狂乱の宴は終りを告げる。
笑顔で会話を弾ませるその中心では玩具として嬲られ続けた黒髪のメイドが小さな痙攣を繰り返しながら、焦点の合わない瞳を虚空に浮かべ続けるのであった――。

数時間後…、少女たちの狂乱の宴は終りを告げる。
笑顔で会話を弾ませるその中心では玩具として嬲られ続けた黒髪のメイドが小さな痙攣を繰り返しながら、焦点の合わない瞳を虚空に浮かべ続けるのであった――。

数時間後・・・、少女たちの狂乱の宴は終りを告げる。
笑顔で会話を弾ませるその中心では玩具として嬲られ続けた黒髪のメイドが小さな痙攣を繰り返しながら、焦点の合わない瞳を虚空に浮かべ続けるのであった――。